10　　の水心 　文法　助動詞②　す・さす・しむ

は能書の㋐聞こえありけり。関東へりて将軍家のにて物書きけるが、関東は水しくて筆の勢ひ伸びがたき㋑を言ひければ、「①都にてはいかなる水をもて書くにや」と問はⓐせふ時、「京の柳の水こそ軽くてしき」とす。②将軍あやしとし召して、みそかに都へ人をせ、柳の水をに入れて取りらⓑしめ、重ねて昭乗を召し、試みられけるに、筆をりてにさしし、いささか文字を書きけるが、やがて筆を止め、に向かひて、「これは、軽くてよき水なり。京にて用ゐる柳の水に変はらず」と申しけるにぞ③大いに驚きけるとなん。

語注

柳＝京都の地名。

基本古語

みそかなり（形動ナリ）＝こっそり。ひそかだ。

いささか（副）＝少し。わずかばかり。

【原文】

は能書の聞こえありけり。関東へりて将軍家のにて物書きけるが、関東は水しくて筆の勢ひ伸びがたきを言ひければ、「都にてはいかなる水をもて書くにや」と問はせふ時、「京の柳の水こそ軽くてしき」とす。将軍あやしとし召して、みそかに都へ人をせ、柳の水をに入れて取りらしめ、重ねて昭乗を召し、試みられけるに、筆をりてにさしし、いささか文字を書きけるが、やがて筆を止め、に向かひて、「これは、軽くてよき水なり。京にて用ゐる柳の水に変はらず」と申しけるにぞ大いに驚きけるとなん。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

文字上手として名高い〔　　　　〕が〔　　　　〕の前で〔　　　　〕の水は書きにくいと言った。〔　　　　〕は昭乗が評価する〔　　　　　　〕をひそかに用意し試したところ、彼はその水が〔　　　　　〕と同じくらいよい水だと即座に言った。人々はその様子に大変驚いた。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。〈3点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　　　〕

問三 二重線部ⓐ・ⓑの助動詞の文法的意味と活用形を答えよ。〈3点×2〉

ⓐ〔　　　　　・　　　　　形〕　ⓑ〔　　　　　・　　　　　形〕

問四　チェック問題　助動詞②　す・さす・しむ

⑴　次の活用表を完成させよ。〈1点×4〉

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| サ変動詞  「す」 | しむ | さす | す |  |
|  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  | 命令形 |
|  |  |  |  | 接続 |

⑵　次の傍線部の説明として適当なものを選べ。〈2点×4〉

1　狩りはねむごろにもせで、酒を飲みつつ（伊勢物語）

2　が声も聞こえざりせば恋ひて死なまし（万葉集）

3　言ひつること、いま一かへり我に言ひて聞かせよ。（更級日記）

4　を高く上げたれば、笑はせ給ふ。（枕草子）

ア　過去の助動詞　　　　　イ　尊敬の助動詞

ウ　サ行変格活用の動詞　　エ　使役の助動詞

1〔　　　〕　2〔　　　〕　3〔　　　〕　4〔　　　〕

問五　傍線部①の現代語訳として最も適当なものを選べ。〈4点〉

ア　都ではどこの水を用いて書くのが一般的なのか。

イ　都では水をどのように使って書くのだろうか。

ウ　都ではどのような水を用いて書くのであろうか。

エ　都ではどうして水を使って書くことなどしようか。

〔　　　〕

問六　傍線部②について、

⑴　この時の「将軍」の心情として最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　昭乗が本当に水の違いを判別できるかどうかいぶかしんでいる。

イ　昭乗の書家としての腕前が本物かどうか疑念を抱いている。

ウ　昭乗の言うとおり柳の水が優れているかどうか半信半疑でいる。

エ　昭乗が関東の水を悪いと酷評したことを不服に思っている。

〔　　　〕

⑵　「将軍」はどのような方法で「昭乗」の言葉の真偽を確かめようとしたのか。解答欄に合うように、三十字以内で答えよ。〈9点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕という方法。

問七 傍線部③とあるが、「皆人」はなぜ驚いたのか。最も適当なものを選べ。〈7点〉

ア　どんな水でも上手な文字が書けることを、昭乗が証明したから。

イ　瓶に入った水が柳の水であることを、昭乗が即座に見破ったから。

ウ　将軍の嫌がらせに屈せず、昭乗が平然とその場を切り抜けたから。

エ　少し文字を書いただけで、昭乗がすぐに水の良さを見抜いたから。

〔　　　〕

【解答】

問一　昭乗　将軍　関東　将軍　京の柳の水　柳の水

問二　㋐＝評判　㋑＝事情・旨〈3点×2〉

問三　ⓐ＝尊敬・連用形　ⓑ＝使役・連用形〈3点×2〉

問四　⑴〈1点×4〉

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| サ変動詞  「す」 | しむ | さす | す |  |
| せ | しめ | させ | せ | 未然形 |
| し | しめ | させ | せ | 連用形 |
| す | しむ | さす | す | 終止形 |
| する | しむる | さする | する | 連体形 |
| すれ | しむれ | さすれ | すれ | 已然形 |
| せよ | しめよ | させよ | せよ | 命令形 |
|  | 未然形 | 右以外の未然形 | 四段・ナ変・ラ変の未然形 | 接続 |

⑵　1＝ウ　2＝ア　3＝エ　4＝イ〈2点×4〉

問五　ウ〈4点〉

問六　⑴　ア〈6点〉

⑵　京からこっそり取り寄せた水でふたたび昭乗に文字を書かせる（という方法。）（28字）〈9点〉

問七　エ〈7点〉

【現代語訳】

昭乗は文字を上手に書く人と言う評判があった。（昭乗が）関東へ下向して将軍家の御前で物〔＝文字〕を書いたが、関東は水が悪くて筆の勢いが伸びづらい旨を（昭乗が）言ったところ、「都ではどのような水を用いて（文字を）書くのであろうか」と（将軍が）お尋ねになる時、（昭乗は）「京の柳の水が軽くて（文字を書くのに）適当である」と申し上げる。将軍は疑わしいとお思いになって、こっそりと都へ使者を上京させ、（京都の）柳の水を瓶に採水して（関東へ）下向させ、再び昭乗をお呼び寄せになり、（水の違いがわかるか）お試しなさったところ、（昭乗が）筆をとって硯に浸し、ちょっと文字を書いたが、すぐに筆を（動かすのを）やめ、傍ら（にいる人）に向かって、「これは、軽くてよい水である。京で（文字を書くのに）使う柳の水と変わらない」と申し上げたことにその場の人は皆たいそう驚いたということだ。

【補充問題】

問１　次の動作主を答えよ。

①「言ひければ」（２行目）

②「問はせ給ふ」（２～３行目）

③「試みられける」（４行目）

④「申しける」（６行目）

問２　「にや」（２行目）の後ろに省略されている言葉を答えよ。

問３　「試みられけるに」（４行目）とあるが、将軍はどのような点を確かめようとしたのか。三十字以内で答えよ。

【補充問題解答】

問１　①昭乗　②将軍　③将軍　④昭乗

問２　あらん

問３　文字を書く際の水の違いを昭乗がわかっているかどうかという点。（30字）